

日本数学会教育委員会からの報告

【教育委員会】

日時：2019.3.20 11:45～13:15

場所：東京工業大学大岡山キャンパス本館 1階 H17 講義室

出席：14名

議事の概要は以下のとおりである。

1. 西澤委員（文教大学）の逝去に伴う、委員の変更について委員長から報告された。

2. 同日の教育シンポジウムについて：

委員会終了後に行われるシンポジウムは、会員と「大学入学共通テスト」の概要を共有する意味で大変重要なシンポジウムであることが、委員長から説明された。

また、会員に「大学入学共通テスト」に関する情報提供を目的として、シンポジウムを踏まえた形で、「数学通信」に教育委員会名で新入試関連の記事を掲載する予定であることが説明された。

3. 高橋委員からの情報提供：

高橋委員から、「拠点大学・協力校説明会」の資料に基づき、「数理及びデータサイエンス教育の全国展開」に関して、国の AI 戦略に関連付けた情報提供があった。その後、データサイエンス教育に取り組んでいる大学に所属する委員から、現状（カリキュラム、教材、他校との連携など）が報告され、情報共有を行った。グローバルトップを育成するには、基礎的な数学が必須であるので、当委員会としても注視していきたい。

4. 理数系教育問題連絡会の報告：

11月に開催された2018年度第2回理数系教育問題連絡会に出席した海老原委員から、報告が行われた。他学会の活動の様子（高等学校での理科の用語に関する提言など）やシンポジウムの開催などが報告された。

5. 次回シンポジウムについて：

国が推し進めている AI 戦略パッケージによると、「AI・数理・データサイエンス教育」の拡充が求められ、全ての学部学生にこれを必修化するという記載がある。そこで、文理の枠を超えた「数理及びデータサイエンス教育」の具体的なあり方について、話題を提供するようなシンポジウムを秋の学会の折に開催することになった。後日講

演を竹村彰通 滋賀大学データサイエンス学部長と、鈴木寛 国際基督教大学名誉教授に依頼し、快諾を得た。

6. その他：

・今年度をもって、高橋哲也委員（大阪府立大）、坪井俊委員（東大）、藤田岳彦委員（中央大）の3名が任期満了になることに伴い、新委員の推薦依頼が委員長からなされた。委嘱に関しては、性別、所属、地域、専門などにも可能な限り留意した上で、バランスのとれた構成を目指すことが確認された。

・会議に出席の高橋委員と坪井委員から退任の挨拶があった。

・松井委員から、教育職員免許状の再課程認定に関連して、高等学校情報科の教員養成課程の継続について話題提供があり、今回取りやめた数学教室が少なからず存在している状況が報告された。また、委員の在職する大学でも、取りやめたところも数校存在した。

文責 教育委員会委員長 牛瀧文宏